

『11月の主な動き』

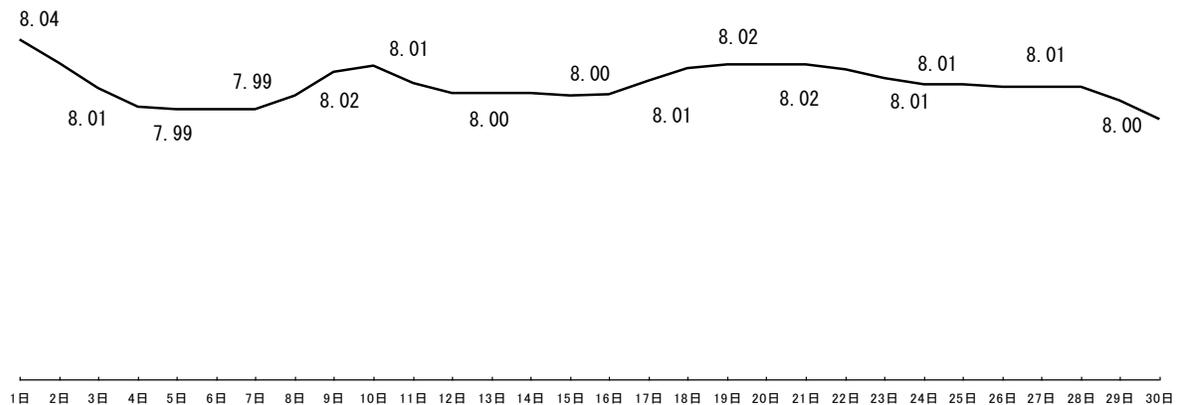
- 11月、対米ドル・ケツアル為替は1ドル=8ケツアル前後で推移した。
- 11月、消費者物価指数は、前年同期比で5.25%上昇となり年率では11ヶ月連続して上昇した。
- 11月、外国からの送金額は前月に比べ下落したものの、9ヶ月連続で前年同月額を上回った。
- 12日、コロン大統領はバルセレス財務大臣を更迭、15日、後任としてデル・シド・グアテマラ社会保険庁（IGSS）運営管理局長が新財務大臣に就任した。
- 30日、2011年度国家予算案が国会において承認された。

1. 主な経済指標

(1) 為替レート（中銀）

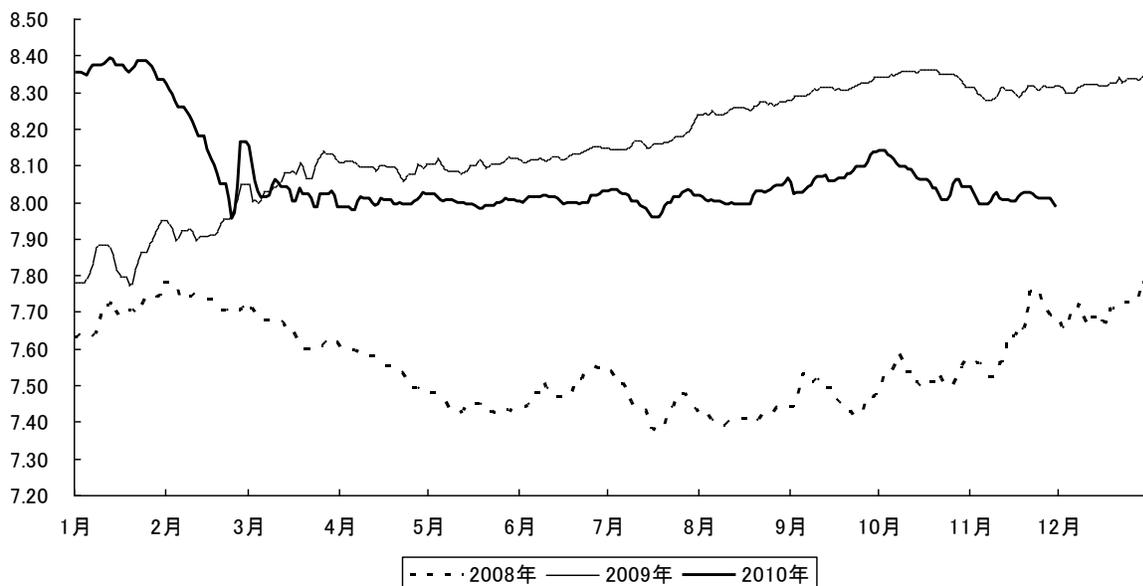
11月、ケツアルの対米ドル為替相場は1ドル=8ケツアル前後で推移した。11月30日時点の為替レートは同月初頭に比べ0.057ケツアル高ドル安の1ドル=7.986ケツアルであった。

ケツアル対ドル相場の推移：2010年11月



(出典：グアテマラ中央銀行)

ケツアル対ドル相場の推移：2008年—2010年

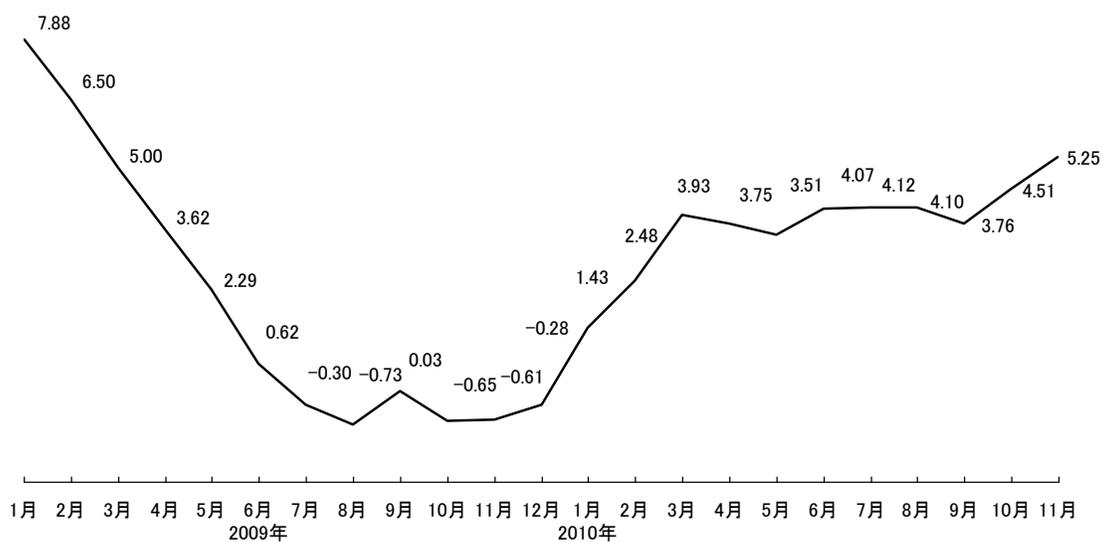


(出典：グアテマラ中央銀行)

(2) 消費者物価指数 (中銀及び国立統計院)

11月、消費者物価指数は前月比で0.77%の上昇となった。また、前年同月比では5.25%の上昇となり、年率では2010年1月以降11ヶ月連続して上昇した。

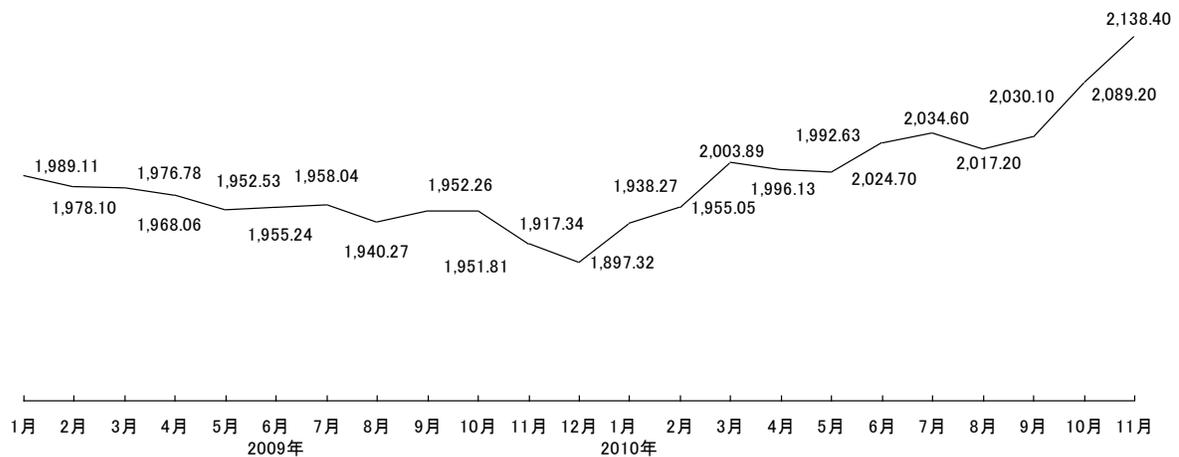
消費者物価変動率(対前年同月比：%)：2009-2010年



(出典：グアテマラ中央銀行及び国立統計院)

基礎的食料品バスケット（Canasta Básica de Alimentos: 1世帯5.38人分のカロリーとタンパク質の摂取を満たす最低限の食料26品目）価格は、前月比49.20ケツアル増の2,138.40ケツアル/月となった。

基礎的食糧品バスケット価格：2009-2010年



(出典：国立統計院)

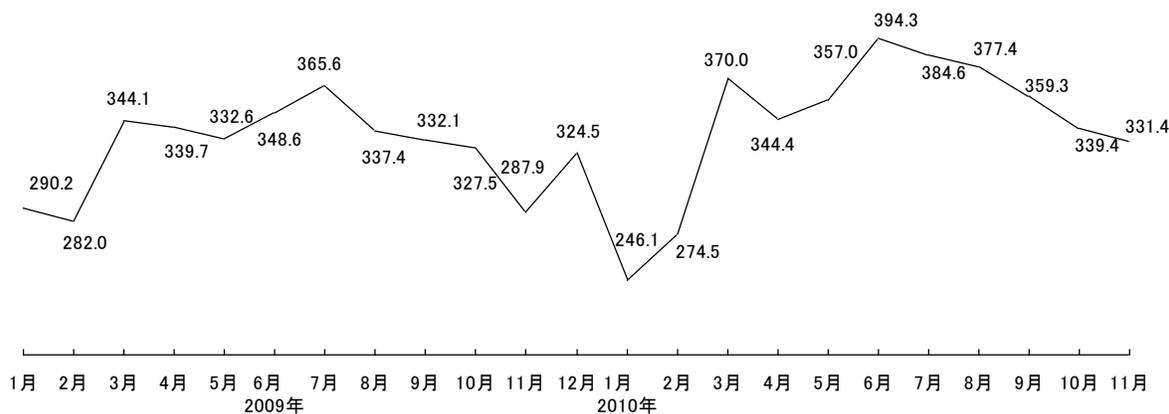
また、基礎的生活バスケット（Canasta Básica Vital: 基礎的食料品バスケットに、生活に不可欠な財と最低限のサービスを加えたもの）の価格も、前月比89.78ケツアル増の3,902.19ケツアル/月となった。

(3) 外国からの送金（中銀）

11月、外国からの送金額は前月に比べ下落したものの、前年同月比15.1%増の3億3,138万ドルとなり、9ヶ月連続で前年同月額を上回った。

外国からの送金額：2009-2010年

(単位：百万米ドル)



(出典：グアテマラ中央銀行)

2. 国内経済トピックス

(1) 2011年度国家予算案の承認

(イ) 30日、2011年度国家予算案が過半数を上回る賛成票を得て承認された。右予算案は、今年度予算(補正予算を含む513億320万ケツアル)比6%増となる543億9,090万ケツアルとなった。また、同予算案では、56億8,100万ケツアルに上る国債の発行が承認されている。なお、2010年度国家予算案は不成立となったため、当国において国家予算案が承認されたのは2年振りとなった。

(ロ) 承認された予算案においては、教育省、厚生省、内務省、通信インフラ住宅省、国家和平基金(FONAPAZ)及び県開発審議会(CODEDE)充て予算額の削減が禁止された。一方、教育省、国家和平基金(FONAPAZ)及び県開発審議会(CODEDE)間における予算の組み替えは可能となっている。また、条件付支援金交付制度(Mi Familia Progresiva)の予算額は、10億2,600万ケツアルとなると共に、同予算額の変更は今後不可能となった。

(ハ) アレバロ国家金融審議会国会代表代行(統一党派党(PU))は、「2011年度の対GDP財政赤字率は、国際通貨基金(IMF)が管理可能な範囲とする2.7%から2.8%となる見込みである。一方、当国の財政赤字総額は非常に高いレベルに到達しつつあり懸念している。財政合意や税制改革が実現出来なければ当国の負債額は今後も増え続けるであろう。」旨述べた。

(2) 財務大臣の更迭

(イ) 12日、コロン大統領は記者会見において、「バルセレス財務大臣は、政権内の決定に従わず閣僚との間に不協和音をもたらしたため、同大臣を更迭した。」と発表した。一方、バルセレス前財務大臣は、「財源不足のため、財源の調整及び支出の厳格化に取り組んでいたものの、実現不可能と実感したため辞任した。社会連帯審議会及び教育省を始めとする様々な機関からは多大な予算請求があった。支出を抑制しなければ当国の対GDP比財政赤字額は本年予測されていた3.4%を超過してしまうであろう。」旨述べた。

(ロ) 14日、辞任したバルセレス前財務大臣の後任として、ロランド・アルフレド・デル・シド・ピネージョス(Rolando Alfredo del Cid Pinillos)グアテマラ社会保険庁(IGSS)運営管理局長が新財務大臣として任命され、15日、就任した。デル・シド新財務大臣は、これまでに13年間に渡り財務省で勤務した後、2005年よりグアテマラ社会保険庁(IGSS)運営管理局長を務めていた。

(3) 2010年人間開発指数の発表

4日、当地国連開発計画(UNDP)事務所は、2010年の当国人間開発指数が0.56(前年0.70)で169カ国中116位(前年同116位)であった旨発表した(注:本年より同指数の計算には新方式を採用しているため、指数値に関しては前年と比較出来ない。)。アリオラUNDP当地事務所コンサルタント(統計担当)は、「過去30年において当国の人間開発指数は進歩を見せているものの、進展のペースが現状を維持すると仮定すると、当国が現在のラテンアメリカ諸国の同指数平均値に達するには今後65年の年月を要する。」旨述べた。

(4) 韓国の当国鉄道事業参入の可能性

14日付当地エル・ペリオディコ紙日曜版は、「鉄道、再び」と題する記事を掲載し、韓国の当国鉄道事業への参入の可能性等について以下の通り報じた。

(イ) 2010年4月、韓国は当国政府に対し、当国のメキシコ国境に位置するエル・カルメン市からカリブ海側のバリオス港及びエルサルバドルとの国境に位置するアンギアトゥ市を結ぶ鉄道網に必要なインフラ整備(橋梁、線路、駅の建設等)を提案した。サマヨア・グアテマラ鉄道公社(FEGUA)代表は、「現在、(米企業と法的問題を抱えているため)既存線路を用いた鉄道事業が難しい中、韓国関係者は当国における新たな線路の建設を不可能ではないと判断し、その後、自分を含む当国関係者を同国に招待した。同国訪問において、驚くべき鉄道技術の進歩を自分の目で確かめる事が出来た。」旨述べた。

(ロ) 当国鉄道事業の再開は、当国がメキシコ・パナマ間を鉄道で結ぶ計画「メソアメリカ鉄道回廊(Corredor Ferroviario de Mesoamerica)」に改めて参加する事を意味する。サマヨアFEGUA代表は、「当国は北米と南米の間という重要な位置を占めているにもかかわらず、「メソアメリカ鉄道回廊計画」が当国における鉄道運営問題のため頓挫している事は問題視されている。現在、韓国が(新たな線路を用いる)当国鉄道事業に唯一関心を示している。今後2011年4月にコンセッション入札が行われる予定である。」旨述べた。韓国との鉄道事業計画が具体化した

場合、当国は旅客及び貨物列車の両方を対象とした「メソアメリカ鉄道回廊計画」への参加も現実的に考え得る事となる。米州開発銀行（IDB）は、中米地域における鉄道建設計画の調査に100万ドルの供与を決定している。

3. 対外経済トピックス

（1）中米・ペルーFTA協議の開始

8日、当国政府は、同日リマにおいて開始された中米・ペルーFTA交渉に参加する旨表明した。トレホ経済次官は、「経済省は、本交渉への参加を決定した。当国は、本件について中米他国に遅れを取ることは許されない。」旨述べた。中銀の報告によると、本年8月までの当国対ペルー輸出総額は4,430万ドルに上り、主に原材料を輸出している。

（了）